

平成29年度 まちづくり懇談会

中大塩地区会場の要旨

平成29年11月9日（木） 19:00～21:00

中大塩地区コミュニティセンター 参加者 60名

市長：改めましてこんばんは。朝晩はだいぶ冷えこみがきつくなってまいりました。体調管理には十分ご注意をいただきたいと思います。また日頃より中大塩の皆さんには茅野市のまちづくり、ひとづくりにはお力添えをいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。過日は40周年、おめでとうございました。私は他とかぶってしまいまして出席できませんでしたけど、副市長がしっかりとお祝いをお届けしたかと思えます。また50年、100年に向けて更なる飛躍を期待するところがございます。また宿中の道路改修ですけど、国の方も目を開いていただきまして当初の予定より1年早く前倒しで完成ができるということでございまして、皆様には長い間ご迷惑をおかけしましたけれども、良い環境が少しでもできるかなと期待しているところがございます。本日はお寒い中、またお忙しいお疲れのところ平成29年度まちづくり懇談会にご出席をいただきましてありがとうございます。昨年のまち懇は「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということで、これからのまちづくりにつきまして意見交換をさせていただきました。そんなことも参考にさせていただきまして、茅野市では来年から始まる第5次茅野市総合計画作りを進めております。今日はその基本的な指針と言いますか5点ほどの考え方をご説明させていただきまして、それに対して皆さまからご意見をいただき、計画に反映していければと思っております。また後段では「中大塩地区の魅力」につきまして意見交換をさせていただき、尚且つその魅力を活用して良いまちづくりに取り組んでいく、そんなことについて意見交換ができればと思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

企画部長：続きましてこのまちづくり懇談会は、中大塩地区区長会との共催で実施をしております。それでは藤森区長会長様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

中大塩地区区長会長：皆さんこんばんは。今日は大勢の方まちづくり懇談会にご参加いただきまして、ありがとうございます。また市長はじめ市の職員の方、今日はありがとうございます。中大塩地区は今年のスローガンに「住み良いまちづくり」を掲げましていろんな活動をしています。まだまだ不十分な面もありますけど、今日話を聞いていただいて率直な意見交換をしていただければと思います。中大塩地区は区から地区に昇格したということもあって、平らな地区事業、一体感を持った事業を運営しています。それに加えまして、全国津々浦々からいろんな方々に移り住んで多様性に富んだ地区、一体感と多様性を加味した地区として特色がございます。こういった特色を活かしながらより良いまちづくり、こういったことも今後続けていきたいと思えます。是非今日の機会は膝を交えて市長はじめ皆様と議論していただいて、良い

方向性が出ればと考えておりますのでよろしく願いいたします。

ーテーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照ー

市長：5つのテーマがございましたので、それをモットーに意見交換を進めてまいりたいと思います。先程の将来像のことであつたり人口減少の問題があつたり、どんなご意見でも構いませんので遠慮なさらずにご発言をいただければと思いますし、テーマが進んでいって前に戻つてのご発言でもかまいませんので、よろしく願いいたします。

まず「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということで、現在も中大塩さんにおいても「支え合いの会」を取り組んでいただいております。そういった取組は各所で行われている訳でございますけど、もう一步踏み込んだ支え合いの仕組みということで「空家・公民館を活用した居場所づくり」と挙げさせていただきましたけど、これについて「そうは言つたつて簡単には行かないぞ」と、実際そうです。そんなことも含めまして普段思われていること、今日話を聞いていて気づいたこと何でもかまいません。ご発言をお願いいたします。

中大塩地区区長会長：中大塩の現状を踏まえての話になりますけど、先程市長からの話にもあつたように非常に高齢化が進んでおります。4区あるんですがいろんな事業・活動をするにあつたつてご高齢の方で従来頑張ってやっていたいただいても「もう年だから無理だよ」という話がポツポツと、中大塩を立ち上げたご苦労された方々から出てきているということ。中大塩は率直に高齢化。また子供が少ないと言っておりますけど、運動会を見れば非常に多くの子供さんが出ていただいたりして、ご高齢の方から若い子供まで幅広くいるんですけど、特に高齢の方がいる場合について「支え合い」、これを今年いろいろ考えて進めてきています。「支え合い」は基本的に最初の単位は「組」になります。組単位で、組の中の住民の内容について組長さんが一番知っている訳ですから、中大塩の場合はいろんな役に就く場合「組長さんがその組でご苦労いただいているので除外しよう」とか、組の動きが基本なんですね。それに対して地区で何ができるかという議論をさせてもらっている経緯があるんですけど、やはりご高齢の方に対して地区として優しいことをしなくてははいけない、住みやすいまちにしないといけない。ということで今年も条例を変えようとしておりますけど、地区としてやるべきだと。市としては地区コミュニティが主体となった地域福祉。これも掲げてもらっておりますけど、まだ地に付かない所であります。こういった支え合いの仕組みづくりが一番大きな課題かと思っております。皆さん方が多様化しておりますして価値観も違いますから、そういった意味でどうしたら良いかと議論をして、中大塩は非常に多くのスキルを持った方が大勢いらっしゃるから、そういう人達を募集していろんな活動部隊を作ろうと。この辺を上手く地道に立ち上げて「こういうことならこのセクションに聞けばいいよ」と、いろんな方面から組織化していきたいなど。これはコミュニティと社協の方からご意見いただいて、私もそう思っています。当然単年度ではできませんから、申し送りの中でいくらかずつ進めていきたい。これに関して市として他地区

の動きで顕著なものがあれば教えていただきたいということと、市としてもこうしたコミュニティ・地区の動きに関して指導と言いますか、「事業ごとにこうすれば良い」とか「茅野市にこういうセクションがあるから聞いたら良い」とかそういったことをお聞きしたいと思います。

市長：ありがとうございます。是非様々な取組の試行錯誤をしていただいて、一つ一つ形になっていけば良いと思います。茅野市は福祉をやるときに重層構造ということで取り組んでいます。2層という単位を市の単位として、3層が保健福祉サービスの単位・中学校校区、4層が地区コミュニティ、5層が区・自治会、6層が組。理想は5、6層の区であったり組で区長会長さんがおっしゃるようなきちんとした仕組みができていて、それを目指して取り組んでいる訳ですけど、その取り掛かりとして3層の4サービスセンター、4層のコミュニティをまずは活性化、力を付けていただいてそこが区や組の方に入っていける、今はそんな段階にきているかなと思っています。具体的に区の方で居場所作りを取り組んでいる所が2、3ございまして、1つが北山の糸萱区さん。ここは農協の店舗があったのですが辞められたのでそこを活用して、フリーにそこに高齢者の皆さんや子供が遊びにきているという状況で取り組んでいる例がございます。また宮川の両久保区さんでは子供の居場所という形で公民館を開放して、そこに子供達が居場所として取り組んでいる例もございます。まだスタートしたばかりでして、片方は空いたスペースを利用している、片方は公民館を利用している、という一つの良い例になっているかなということで、市としても可能な支援はさせていただいております。本当にかゆい所に手が届くと言ったら組単位だろうと思いますが、いきなり組単位まではいきにくい。そうすると中大塩区さんは事情が違ってもせれませんけど、区・自治会に公民館は皆さんある訳ですが昼間の稼働率は少なく、ほとんどが夜の区会の議会だとかそういったのに使われている状況だと思います。もったいないと思ひまして、そこを常時誰かがいて居場所としてやっていけないものかと。市としても試行錯誤していきたくと思っています。今までのまち懇の中で子供さんがそこに来るとなると、事故があったときの責任はどうするんだという問題が出てきます。これが結構大きな問題でして、そういったことを解決していかななくてはいけないとか。またそこに誰かが居ると言っても「誰がいるんだ？」ということ。皆さん一線を退いた方でもお仕事をされている中では、あまり超高齢の方になると大変ですからそうもいかない。そういう所に昔の区の公民館に小遣いさんとかお世話を焼いてくれた方がいまして、多分区で採用させていただこうと思いますけど、そういった方を市の方で手当てをしてやれるかとか、いろんなことを考えないといけないかなと思っています。理想は地域の皆さんでそこに携わってくれる方もいて、市もバックアップして、みたいな仕組みかなと思っています。中大塩さんでは今どんなイメージでお考えになっていますか。

中大塩地区区長会長：漠然とはそういう話があるし、具体的に公民館を蓼科の高齢者クラブとかいろんなセクションを使って、それなりに動いてもらっています。積極的に参加される方はかまわないんだけど、そういう所に参加しにくい方、なかなか動きにくい方、こういった方を

自然に受け入れる体制・環境がまだ分かりにくい所です。議論はするにしてもとりあえず支え合いマップを作ろうとやらせていただいていますけど、そういったものを上手く活用できる、日頃表に出られない方も気軽に居心地の良い場所ができたらなという気はしています。

市長：先程お話したゆいわーくもある意味その大きい版といいますか、市の対応かなと思っています。あそこも必ず誰かがいてくれて、いつ行ってもいろんな相談に乗ってくれる。「今度こういう活動しているんだけど、どうしたら良いか」あるいは「こういうことをやりたいから、それを手伝ってくれるグループはないか」そういった相談にも乗ってます。わざわざ鍵を借りなきゃいけないという活用されないだろうなと思います。公民館に行けば誰かが居てくれて、そこでお茶のみ話もできたり、子供も自由に遊んで誰かが見ている。そんな雰囲気かなと思っています。それと「年を取ってきたから区の役もできない、だから区から抜ける」という話を聞きますけど、本当は逆だと思うんですね。動かなくなってきたからコミュニティで一緒に支え合う、そういう風を持っていかねばいけないと思います。でも実際誰かが役をやっけていかなくてはならない、そういう中では区の仕事も根本的な見直しをやらなくてはならないなと思っています。

市民：現在これから人口がどんどん減っていきます。そうすると学校も統合せざるを得なくなる。住居もどこかに集めなくてはならないだろう。それで茅野市はどういう方向に行くのか、例えばコンパクトシティという話もありますけど、そういう方向に行くのか。その辺のお話を伺いたい。

市長：これは大きなテーマになってくるかと思っています。国はコンパクトシティという形で進めています。これも非常に大事なことでありまして、特に高齢になっていくと全てのものが集まっている所に住まわれた方が楽なわけですし、何でも歩いて行ける所に病院やいろいろある、それがコンパクトシティです。そうすることで都市の効率化、お金も掛からない、町が賑わうということですけど、正直茅野市の場合なかなかコンパクトシティという訳にもいかないと思っています。やはり生い立ちの歴史もありますので。そういうことを考えますと、各地区ごとをコンパクトにしていくことが茅野市には合っているのかなと。例えば小学校、保育園、コミュニティはだいたい同じ所にありますよね。昔の村だった頃の村役場と学校であって、そういう中ではその地区ごとでコンパクト化していく。建物も将来の建て替えのときには小学校の中にコミュニティセンターも保育園も入れて。コンパクトな一つの地区の拠点として、そんな形が良いのかなと個人的には思っております。小学校の統合というのも将来には出てくるだろうとは思いますが、小学校も一人もいなくなれば別ですけど、統合させたくないなと。地区の象徴としてそこをベースにコンパクト化していく方向にもっていきたいと思っています。

市民：最近茅野市の将来を見越した積極姿勢というのが、とても目につくようになりまして。

例えばゆいわーくは福祉関係の情報発信として頻繁にいろんなことをやっていますので、とてもすごいなと思います。また観光の都市として考えているということで、新聞とかを見ますと全国の優秀な成功した都市のスペシャリストを茅野市が引き抜いて、茅野市の観光を深めようということで各地域に担当を送り込んで尻を叩いているということもあります。実際中大塩でもアプローチを受けましたし、なかなかそれをお答できない状況でありますけど、いずれにせよ茅野市が全体を活性化しようと、何とかして将来に向けて引っ張って行こうという姿勢が見えているので、非常に評価をしています。そこでいろんなプロジェクトで項目がございますけど地域ごとに特性がありまして、一つの施設を作るにしても「施設を作る」ということだけに目を向けますと「その施設は確かに良くなる」、ただそれだけのことです。そうでなくて、その地域ごとに全体的にビジョンを考えて。例えば中大塩でしたらコミュニティセンターの隣に保育園がある、そうするとコミュニティセンターと保育園の位置関係を考えて、そこに大きな生活の基盤、高齢者の居場所とかそういったものを取り入れて設計ができないかと。実際保育園が確か2年後に改修されるんですよね。それに向けてそういうアイデアを取り入れた設計をしていただければありがたいかなという思いでいます。

市長：ありがとうございます。中大塩保育園のリノベーションについては来年度から具体的に取組が始まってまいります。検討委員会を作りまして、そこで議論をしていただいて実際に作り上げていくという形になろうかと思います。当然区長さんであったり保護者会の皆さんだったり、関係者の皆さんに入っていただいてどんな機能を出せるかということも議論してまいりますので、その時に先程言いました居場所ということに関連して上手く連携して使えれば。というか、そうしていかなくてはいけないと思っていますので、またご意見をどんどん出していきたいと思っております。

市民：そういう地域に刺激を持たすために、いろんな人を派遣してサポートしてくれているんですけど、そういうサポートによって何か新しい企画だとか事業が始まっている地域はありますか。

市長：今おっしゃっていただいているのは観光まちづくりの地域おこし協力隊のことでしょうか。

市民：そうですね。一つは観光まちづくりのこととか、その他いろんなサポーターが送られてきてアドバイスを貰っているんですけど。

市長：今特徴的な観光まちづくりには13名来ています。いろんなキャリアを持った専門的な部分が強い皆さんでございまして、彼らから積極的に動いてくれています。今は滞在型のメニュー作りを試行錯誤しています。具体的には、特にアプローチしているのが柏原区・笹原区・

金沢辺りで体験型農家民泊であったりとか、ここでなければできないようなちょっと違った農業体験のメニュー作りをしまして。まだ正式にはできていませんけどモニターツアーをしている状況です。また観光だけではなくていろんな視点も持っていますので、中大塩さんでも懇談会に呼んで話を聞いてみようと、是非声をかけていただきたいと思います。ひょんなところから駒が出ることもあるかなと思いますので。彼ら達もそういうことを待っていますのでよろしく願いいたします。

教育長と校長先生に教育についての取組について説明してください。

教育長：皆さんこんばんは。私達、学校の敷居は低くしているつもりなんだけど学校って敷居が高いですね。今日は校長先生に来ていただいていますので、私が説明した後で校長先生から生の話をしてもらおう予定です。茅野市の教育の他にない大きな特徴といいますと、幼稚園・保育園と小学校との連携、小学校と中学校の連携という形で、保育園から中学校まで1本の線で通っている大きな仕組みがあります。その幼稚園・小学校・中学校の真ん中になる大黒柱が「読書教育」になります。特に読書の方は毎年茅野市の学校は1校ずつ文部科学大臣賞をもらって大変高く評価されているし力が付いています。保育園・小学校の連携教育で一番は小学校に入ったときに1年生で学校が嫌になる、来ないという子が他の地域では多い訳ですが、茅野市の場合はほとんどそういうことがありません。保育園と小学校で連携して先生と保育士も行き来しているし子供同士も行き来しているという中で、小学校に入ったときに顔見知りのお兄さんお姉さんがいっぱいいるということは一つの安心であります。今度小学校から中学も他の地域にいくと中学1年生で不登校が増えて学校に来なくなります。理由が小学校の教え方と中学の教え方があまりに違い過ぎる。そういうところで、ここ4年間ぐらい小学校と中学が同じような教え方で1本筋を通して行っています。生徒指導も小学校と中学校で情報を公開し合う、そんな形です。「幼保小連携教育」「小中一貫」「読書」で大きな枠を作って、その上で英語教育・ICT教育をしています。英語の方は平成32年から国の方針で教科化されます。5、6年生が週1時間から2時間になって、小学校卒業時で700語ぐらい単語を覚えなくてははいけない、すごい状態になっています。それに向かって一番子供達の負担になってはいけないということで、完全な実施まで3年ある訳ですが今年度から準備を始めています。台湾から英語の専門家の先生をお呼びして子供達に英語を教えると同時に教職員の力もつけています。4月の頃は私が見に行ったときは、台湾の先生の授業についていけないんですけど、今は全くついていけず何を言っているか分かりません。ただ子供は分かっています。是非各学校に見に行ってください。ICT教育も平成32年から国が本格的に始めます。ただこれもお金がかかることで、32年からパッと始められないので、今年度はテレビ会議システムと一部ですがタブレットを導入して準備しています。来年度は大型テレビとタブレットを一部導入します。再来年度は各学校で1クラス人数分のタブレットを準備するよう進めています。英語教育やICT教育だと形だけの教育になるという面があるので、縄文科という形で体験を重視して実際土や自然に触れたりして、子供達が自分の生き方やこれからの社会の在り方を考える、そういうところで「たくましく、や

さしい、夢のある子」を育てる、そういう考えでいます。具体的には校長先生お願いします。

北部中学校長：私の方から小中一貫のことについてお話します。保育園・小学校と連続して共通に継続について考えています。また小中学校でどんなことを学んでいくのかという内容的なこと、どんな風に学ぶのかという学び方のこと、そのことについて中学校と小学校の教員が年に何回か会って打合せをしながら。ここは北部中学校区園というところに入る訳ですけど、豊平小・湖東小・米沢小・北山小と連絡をとりながら、縦の成長について系統性をどうもっていくかと同時に、茅野市の北東部に住む子供達の横のつながりも考えるようにしていて、小学生同士の交流・小学生と中学生の交流を進めながら地域の中の学校として一体感をどう作るか、ということについて取り組んでいるところです。いずれにしても時間のかかることですので、少しずつ新しいアイデアを入れながら縦の系列の連続性と、横の繋がり一体感を目指して小中一貫の推進を行っています。来週小学6年生が中学校に集まって、子供達の企画で公民館にきます。各小学校の児童会長と中学校の生徒会長がみんなでやりたいことを決めていまして、とても良い雰囲気の中話をしていて、この繋がりが地域のまとまりとして子供達のためになればなど期待しています。

市長：ありがとうございました。教育のことにつきまして、また他の前段のことでもかまいませんし「安全・安心」「あらゆる主体による協働」でもかまいません。お気づきのご意見ありましたらどうぞ。

市民：今の説明の中で、茅野市が読書活動を盛んに行われているということで、読書活動と言葉で言っても具体的にどういった活動で文部科学大臣賞を受けているのか分かりませんが、ただたくさん本を読んでそれで済んでいるのか分かりません。先月、脇明子さんの講演がありました。そのときに教育長さんが見えになっていて、最後の挨拶の中で「今小学校の中で、何冊読みなさいとか、朝読書の10分間の在り方について、小学校でやっているやり方はどうなのか」という質問に対して、教育長さんの方から反省というか、検討すべきやり方があると話がありました。要は「10分間読書」というのは誰でも勝手に好きな本を読んで、それでおしまいになっている状態ではないかということ。ですから「同じクラスの人が共通に読書をして結果について話し合うとか、内容について共感を得る」ということをしない、ただ読めば良いというものが本当に良いのか。また「何冊読みなさい」という中でただ本を読んでそれが身に付いた読書になっているかどうか、というものについて考えなおす必要があるのではないかというお言葉があったんですけど、それについて茅野市内の読書活動をどうしていこうか、もし案があったらお聞かせ願いたいです。

教育長：今言われたとおりなんですけど、朝読書と言ったときに常に工夫して、今のやり方で良いのか検討していかないと生かされないところがあります。例えば子供達にただ「本読めよ」

と言っても朝読書にはならない。その中で先生がどういう読み聞かせをするか、どういう内容の読み聞かせをするかによって子供達の読書の幅も変わってくるし。また先程言われたようにある時間を使って共通の読み聞かせをして感想を共有する、あるいは個別の読書を休み時間にやって、先生が何人かの子供に読書についてお互いに対話する、様々な指導法があります。そういう中で常に朝読書の在り方というのは、指導法や中身を検討していかなくてはいけないかなと思います。茅野市のこれからの読書の方向ということで、私が大きく考えているのは2つあります。1つはもう一度読書って子供にとって何か、人間にとって何か原点に戻ってみる。今の場合目的型の読書が大きく、学力を上げるための読書とか「何とかのための読書」という傾向がややあると思います。結果として学力がついてくる、何かが分かるということは必要だけど、もう一度小さい子供が初めてお母さんに本を読んでもらって嬉しかった。そういう原点の一つは読書の元かなと、原点をもう一度確かめてみるということ。2つ目がそういう豊かな土台の上に立って本を使って教科の学習を進めていくこと、自分の考えを深めていく。その一つが今やっている「調べ学習コンクール」になると思います。2つ目は図書館を利用して本を使って教科の力を付けていく、考える力を付けていく。それから3つ目として、これはまだ実践がない訳ですが本を通して友達同士が交流していく。本を通して子供と大人が触れ合っていくという方法、それを今考えています。例えばお金や場所の問題になるけれども、土曜日の午後ゆいわくのような場所が自由に使えたら、そこに大人も子供も自由に集まって本を核として大人と子供が話をし、簡単なジュースでも飲めるような。そういうような形で、これは大人も頑張っていかななくてはならない問題で、人と人が繋がっていく、そういう方法を考えています。

市民：これから高齢者社会が進んでいって、交通の面での話とか運転しなくてはいけなくてか、そうすると本当にここで生活できるのだろうか。私なんかは後期高齢者に入ったときに、運転はできるのかとか心配になります。今は免許の書き換えにいくと高齢者の場合、認知症のテストがあり厳しくなっているようですが、これから3人に1人、あるいは2人に1人が認知症になるんじゃないかと言われていています。そろそろ特定健診みたいな形で、ある年齢に達したら認知症の検査を受けるようなシステム、それによってどういうふうな薬で治せるのか、あるいは治療すればある程度治まることができるのか、その辺をこれから真剣に考えていかなければ、確かに「自助、公助」の話がありますが、その人達が長寿できるのか。その辺をそろそろ考えても良いのではと思っています。高齢者の福祉についてお話いただければと思います。

市長：認知症への取組は大きなポイントになってくると思っています。一つは認知症にならない対策をしていくこと、もう一つはなられた方にどう対応していくか、やはり二つの視点があるかなと思います。できるだけならないような普段からの取組を全面的に押し出していかなければいけないと思います。なられた方にどうするかにもいくつかあるかなと思っています。一つは徘徊する方が増えてきているような地区に行ってしまう、そこにどう対応していくかという

こと。それとおっしゃるように強制的にチェックしてという、それも必要になってくるでしょう。きっと国のレベルで考える問題になってくると思います。ただいろんな検診を通してそうしたチェックもできるかと思いますが、その辺をサービスセンター長でお答できることがあればどうぞ。

中部保健福祉サービスセンター長：認知症の検査に関しては、いわゆる「認知症テスト」という形で調べる方法と、今は血液検査でタンパク質の関係を調べることで認知症の前段階の人が少し見つかるのではないかと国の方でかなり調べてられていて、きっと近い将来に特定健診みたいな血液検査で見つけられるようになってくるかなと思います。ただ認知症の方が見つかったときに、それを薬で本当に治せるかどうかという大きな問題があるかと思っています。徘徊されてしまったり、認知症になってしまった方を施設に入れればよいのか、増えてくる人達をどうやって地域で支えていくかがこれからの課題じゃないかなと思います。平均寿命が延びている中で認知症にもならないで元気で過ごされている方と、どうしても認知症が出てきてしまう方がおられると思うんですけど、元気な方が助けながら地域の中で支える仕組みを考えないと、どうしても施設や病院だけでは受け入れできないのかなと感じています。12月からになりますけど「健康づくりポイント」というのを始めます。健診を受けていただいたりとか講演会に出ていただいたり、健康の教室に出ていただいた方にはポイントを付けるような形で、ご自身でも健康づくりに励んでいただくことを応援していく取組も始まる予定ですので、いろんな面から考えていければ良いかなと思います。

市民：もう一つお聞きしたいんですけど、将来に向けて「安全・安心のまちづくり」ということで当然将来の安心・安全も必要ですが、その前に今の安心・安全がなければ将来も無いと思う訳です。今年の8月最初に市内の保育園で集団感染がありました。それが新聞報道されたのが1ヶ月経ってから一般の人達に公表された。その後9月18日頃、また再発した。その報道も9月の終わりぐらいになってからと。入ってきた噂話だと最初に集団感染が発生したときに、その保育園の父兄にO157が発生したという連絡がされていなかったとありました。また市内の保育園についても9月になってからと聞いています。要は保育園の原因でなくて、通園している園児の家庭が原因の様で報道しなかった、また保健所の方もその対策を取らなかったという話も聞いています。市としてそういうときに積極的に対応すべきではないかと思うのですが、保健所の指示が優先されるという話も聞きました。ですから、特に集団感染というものについて市の危機管理について、どういう風に対処する考えなのかお聞きしたいです。

教育長：経過を申し上げます。7月終わりに市内の保育園でO157が発生しました。7月の終わりに発生した中でその保育園が主体になって対応するという中で、今おっしゃられたような経過になっています。私達で特に考えたのが、一つは他の保育園に感染させない、小学校にも一切感染させないことを課題にするということと、その保育園のO157をなくすというこ

とを課題にしました。実際に保育園の〇157について具体的にどう減らしていくかの指導については、県の保健所から直接指導を受けました。小学校・中学校・市内の他の保育園の方は一切感染はありませんでした。そういう経過になりますが今後を考えたときに義務教育の関係は現状のやり方でいく、保育園の方については管理体制をどうしていくかがこれからの課題になります。

市長：教育長に経過を言ってもらいました。おっしゃるように原因は結果として特定されませんでした。多分その最初になられた方のご家庭で旅行に行った際に菌が持ち込まれたのではないかと考えています。1点、ここが市の保育園でなく民間の保育園でしたので、基本的に民間の保育園にきちんと対応するように指示は出しましたが、結果として対応が甘かったかなと考えています。早めに休校・休園して対処すればもっと短期間に終息できたかなと反省はございます。そんなことも含めまして公立の保育園・学校に対しての指導の仕方ももう少し見直さなければいけない部分があるかと思っています。

市民：私立ですから、ある程度市の指導ができにくいということでしょうか。

教育長：公立の場合は学校教育法あるいは保育園の関係の法律で市教委に服務監督権というものがああります。かなり強烈なことを言ってきます。例えば小学校の場合は「〇157が出ているから、一日3回トイレを殺菌しろ」とか「下校時には子供が帰った後に子供の机を全部消毒液で拭け」と教師に言えるし監督できる訳ですが、経営主体が違う場合はその辺の強制力が弱く、先程申し上げたように子供の安全・安心・健康を守ると言ったときに服務監督という問題ではなくて一番に子供を中心にしていかななくてははいけない。安全に関わる緊急時の場合は、服務監督の問題ではなくて私達の考え、向こうの考えがお互いにきちんと合致できて、子供のためになるような指導体制をしっかりと考えていかなければいけないと思います。

市長：時間もおしてしまい、ずれ込んでしまいましたけど、「中大塩の魅力とその活かし方」について、また「地域の話題」について合わせてそちらの方の意見交換もしてまいりたいと思いますので、範囲を広げましてご発言をいただければと思います。中大塩の魅力について区長会長さんから。

中大塩地区区長会長：先程の冒頭お話申し上げたように、中大塩の特徴を活かしたまちづくりということで、地区の中で高齢化、地域福祉、災害、いろんな環境に活用できるような体制づくりの検討を始めています。現在も社協の方で雪かき隊とか、協力してくれる方の部隊を作って連絡があればご自宅に伺って、高齢の方を中心に雪かきをしてもらおうと、このような動きも始まっています。いろんなお助け隊・サークルは子供・高齢者の方々の相談に乗ったり、いろんな人材を活用したセクションを立ち上げようということで、始まったばかりです。名前はこ

ここにあるように「中大塩版人材バンク」となっています。まだ募集が進んでいませんので、どのような人がいるのか分からないのですが、各分野で募りながら中身を議論して、今言った高齢者や子供さんへの援助ができるような体制を是非作りたい。その環境としては、人材もそうですが場所作り、必要な機材がいろいろ出てくるとは思いますけど、そういったものを何とか立ち上げて、中大塩の中が住み良いまち、人が来たい魅力あるまち・地区にしていきたいと考えています。

市長：素晴らしい取組のご紹介をいただきました。こういったことを通して中大塩の魅力になれば良いなと思います。今挙げていただいた例も含めまして、「こんな魅力もあるけど」と言うご発言をしていただければ大変嬉しく思いますけど、どうでしょうか。

市民：質問自体は単純なものだと思うんですけど、諏訪や岡谷、茅野の3つぐらいで集まって何か仕事をするとならず「諏訪」という名称が付くような気がします。今日の資料にも「公立諏訪東京理科大」で、公立に変わる時点で「公立茅野東京理科大」と変えていただく提案をしてみたらどうでしょうか。私が考えるところ諏訪と茅野をまたいでいるバイパスでも「諏訪バイパス」、茅野市がやることではないですけど車のナンバーも「諏訪」ナンバーです。3つに1回ぐらいは茅野の名前をくっつけてもらって、要はこれから人が減っていくと言っても知名度のあるところには人が集まりますから、インターネットの時代ですので必要な働きがけだと思います。

市長：ありがとうございます。「茅野」という名称をどう売っていくかは、私も茅野市長として日々考えています。そういう中で「諏訪」という名称はまた違った面から見ればここは諏訪の地域でございますので、「諏訪」という名称も大事な名称かなとも思います。諏訪理科大のことで言いますと、公立化は茅野市だけでなく諏訪6市町村で事務組合を作ってこの大学を公立化していきます。そういう意味ですと確かに茅野でございますけど、これは「諏訪東京理科大」が良いのではないかなと思います。ただご意見としてお気持ちは重々分かります。

中大塩の魅力ですが、中大塩に誇りを持っている皆さんだと思いますがどうですか。

市民：先程市長さんから将来像の案で「織りなす」ことを協調して言われていて「縦の糸と横の糸が協力し合って」ということですが、その中に茅野市のここを克服すれば良いかなということをお話しますと、やはり茅野市は「寒さ」と「高齢化」ということで、運転免許証のことですけどやはり車がないと行けないものですから、交通面を克服すれば都会の方から移住される方も多く出てくるかと思えます。そのあたりをやってもらえると良いかと思えます。あと「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」の中で「自主防災組織活動の活性化」と出ていますが、私も自主防災会議の委員の一人なんですけど、毎年9月に防災訓練をやる訳ですけど、防災訓練というのは避難場所へ集合することが目的みたいで避難することを中心にして

いるんですけど、本当は大きな地震が来たらまず自分の身の安全と家族の安全ですけど、ニュース時の避難映像でも瓦礫の下の人を助ける人がいないと、警察・消防の人がすぐ来られる訳ではないので、そこに対してもう少し実践の防災訓練を行政の方で手伝っていただければ、本当に救助するときのやり方とかは素人の方しかいないので、教えてくれるような場を設けていただければ多くの助かると思います。もう一点、こういうまちづくり懇談会には若い方が見受けられないと思うんですよ。若者とか子育て世代の方が参加できるような特別企画を考えていただければありがたいと思います。

市長：ありがとうございます。後段の方からですが、確かに今日もここに若い方、女性の方、子育て中の方に来ていただいて、それぞれのお立場で意見を言ってもらうのが良い訳でして、今回もそういう呼びかけはしてはございますが、なかなか子育ての方はお忙しいですし、もうひと工夫していかなければいけないと思っています。今回、理科大が公立化するということもありまして、月曜日は理科大の学生とまち懇をやりまして若者の意見をお聞きします。それぞれの地区においてもどういうのが良いのか。あまり無理して動員をかけてもいけないだろうし、PTAならPTAの会合で話をすることで懇談をすることも考えられるかなど。実際いろいろな私が出る会合では、こういう形ではありませんけどいろんな話も聞いていますので、それも参考にさせていただきたいと思います。いずれにせよ若い人達の参加を促していけないといけないと思います。自主防災の件ですけど本当におっしゃるとおりで、訓練のための訓練では駄目なんですよ。同じ訓練するにも地震が起きたときの対応の訓練と、大雨に対応する訓練とは自ずと違ってきますので、その地区において想定される現状に近い形の訓練をしていこうということで、ここ3年ぐらい前からそんな取組を始めています。ここ中大塩さんにおいても、後ろに上川がある向こう側の人達の心配と、こっち側のお宅の心配とは違ってくるだろうなと思いますので、同じ中大塩さんの中で「大雨に備えた訓練をやろう」というときも、その特徴に合わせて訓練が違わなければおかしいと思います。そんな取組を進めていますので、中大塩さんにもご相談にまいると思います。また実際に講習会みたいなものも必要だと思います。ちの地区は7地区でお互いに助け合いをする協定を結んでいます。過日、ちの地区で初めてその訓練をやりまして、私も参加しました。倒壊家屋から救出するのに電動のこぎりの使い方も、みんな知っているようで結構危ない使い方をしているということで、実際に丸太を切って「こういう使い方をしないと自分も怪我する」という講習会をやりました。これは大事だなと思って見ていましたけど、みんな使ってはいるんでしょけど危ない使い方をしている現状だそうです。そんなことで倒壊家屋からの救出も電動のこぎりを使いますのでそんな訓練であったり、何が一番良いのか一緒にご相談しますので、防災課の方に「そんな計画をするけど、どうすれば良い」とお話していただければと思います。遠慮せずにどんどんご相談をいただきたいと思います。一番最初の寒さ対策ですけどなかなか難しい部分がありますし、年配になってくれば慣れるかと思いますが。この間北山地区のまち懇である方は「茅野市の冬の寒さと明るさが凄く魅力で感激しました」と、移住者でしたけど。「凜とした空気の中で明るい雪景色

は人生の中で感動した」と発言してくれた方がいますし、やはり寒さというのもある意味諏訪の風物詩であり魅力にはなっているかなと思います。生活するには大変なものよく分かっています。また交通は本当に大きい問題になっています。茅野市も昨年リニューアルしてビーナちゃんバスもいじりましたが、あれで賄えるとは当然思っていないので、もう1歩2歩行き届いた形をどう構築していくかですけどこれもお金との相談になりますし、100%満足することはないでしょうから、その中でも使い勝手の良い交通体系を常に考えていかなければいけないと思っていますので、この間のリニューアルで満足はしていませんのでご意見をいただきたいと思っています。

市民：市長さんの方から交通関係の話が出ましたが、実は全国の魅力度ランキングありますよね。茨城県がワーストワンになりました。茨城県の方が「確かにワーストワンだろう。道路の整備率を見てもワーストワンだから」と言う話でした。「道路の整備率」って何か聞いたら、道路のキャパとそこを走る車の実際の量を指数化したものだと言っていました。道路の整備率はどこにその数字があるか見ましたら、国交省の方にそういう数字がありました。言われたように茨城県はワーストワンでした。市町村道まで含めて全国平均が58.9%に対して40.0%でした。長野県はワーストエイト、47都道府県で40位でした。整備率が49.3%。やっぱりこのままではまずいだろうなど、魅力がない、人が集まらない、人が集まらないところにはお店もできない。先程から大学の話もありますけど、まともな本屋もないところに大学って親御さんはそんなところに出したがるだろうか。やはり人が集う町が一番だと思います。そういう部分も含めて考えていくと、費用のこともあって難しいでしょうけどせめて全国平均並みの整備率に行くまでは、上の方から市の辺りまで都市計画に関わる方はもっと頑張ってください、道路整備率というところの数字を上げていただきたいという希望です。

市長：先程話をしましたように、諏訪南の事務組合で、茨城県の最終処分場とかも見てきましたので、その県の職員がやはり「茨城県は人気が無いので1位です。よそから視察に来た人たちに茨城県は良いところだとアピールしろと県知事から言われています」と、くしくもそんな話をしてくださいました。走ったところを見れば長野県より広々としていて良い道でしたけど、全体を見れば手が行き届かないところがあるのでしょうか。確かに道路というのは大事なインフラであって、そこがきちんと良い道であれば気持ちが良いし、そこに住んでいると都会的なものよく分ります。それを目指して県も少ない予算の中で取り組んでいることだろうと思いますし、茅野市としてもあまりにもひどいということで3年前から集中的に道路改修を自前で5年間で10億で取り組んでいます。だいぶ目に見えて良くなったと僅かですが思いますので、そんな取組をしていることはご理解をいただきたいなと思います。ただ住みやすさはいろんな要素がありますので一概にそれだけではないと思いますが、住んでいる市民が自慢できて誇りに思えて、来た人たちがいいねと言ってくれるまちづくりを意識的に取り組んでまいりますのでよろしくお願いします。

都市建設部長：中大塩地区のメイン道路につきましてはお待たせしましたけど工面できまして、何とかお約束より早いうちにメイン道路が通りました。市長さんから申し上げたとおり平成27年度から、ちょうど市長さんが選挙カーで回られたときにこれは道がひどいということで、生活道路がどうしても傷んでいるということがございます。その中で、茅野市民が使う生活道路についても自前で悪い状況のものを改修しなくてはいけないということで、5年間10億ということで修繕をしてよりよい環境づくりをしています。県の方からは市の幹線道路につきまして積極的に直していきますので、よろしくをお願いします。

市長：ご理解をお願いいたします。空家については何かございますか。

市民：空家等の対策につきまして、今日まち懇があるということでコミュニティセンターとも話をしまして何か課題があるかなということで、私が今年たまたま環境自治会長をやらせていただいております、空家・空地の荒れている部分で草が生えていたり木が生い茂っていて迷惑木・危険木になっているものがあるという中で、何とかしたいんだけど持ち主の方がおられますので、やたら手を出す訳にはいかない部分があります。そういう中で平成26年に「空家等対策の推進に関する特別措置法」というのが作られています。その中を見ていきますと、「市町村による計画の策定」「空家等についての情報収集」「空家等及びその跡地の活用」「特定空家等に対する措置」。ここが特にそうなんですけど「要件が明確化された物件について除却、修繕、立木の伐採等の措置の助言又は指導、勧告、命令が可能」とここで決められています。あとは「財政上の措置」ということで、どこまでが法的にやるのかがあると思います。私の方で一番気になったのが、措置の方です。現在危険木や迷惑木があると明らかに分かっているても手が出せない。ところがこの特別措置法の中には「措置に対して助言又は指導、勧告、命令が可能」だとなっています。茅野市についてははまだできていないんじゃないかと思うのですが、秋にも迷惑木で気になっているお宅があったんですが、ご高齢で独居の方がお亡くなりになりました。今年だってやばいのに来年はどうするんだと、非常に高齢化が進んでいる中で今まで以上に問題になるであろうと予測されますので、このあたり市の方ではどう取組されるのかお聞きしたいと思います。

市長：担当がいますので後で詳しく取組をご説明いたします。空家についてはいろんな課題が出ています。一つは空家をうまく利用するという、問題になっているのは廃屋化した空家をどうするかということで、この法律はどちらかというと廃屋化していて衛生上・風紀上に問題になるのをどう対処していくかが主眼でございます。屋根が朽ち落ちて、どうみても危ないというのが放置されているのをどうするかという、特に通学途上にあったりする物件に対応する法律、取組でございます。茅野市もこれをやるためには対策協議会を立ち上げて、市としてのルール作りをしているところでございます。そこまで酷くなくても、おっしゃるようにこっ

ちに住まわれていなくてきちんと管理してくれていない空地であったりお宅で、木が伸び放題でアメシロがついたりというのが市内にもいっぱいございます。基本的に黙って手を入れる訳にはいきませんので、そういう要望があったときには市の持ち主に連絡して、状況を説明して「地元の方が困っているの、きちんと管理してください」と、相手先が分かる限り「手当をしてください」とお願いをしています。中には「なかなか帰れないから、費用は持つので区の方でやってくれ」という例もあります。そういったことで普段生活している中でのトラブルはコミュニケーションを密にして解決に向けていきたいと思います。本当にどうしようもないものは取り壊しをして安全確保するしかない、という中でそんな法律ができてきた訳です。

都市計画係長：よく都市計画課の方で市街の空家の調査を行っています。現地確認も入ってまいりました。内容はほとんど市長さんからお話していただいたのですが、地主、地権者の方に通知や電話等で除去のお願いをしてというのが今の茅野市の現状であります。地主さんの中で取り壊しもできないといった場合、例えば「空家バンク」というのがございまして、移住して来る方に進める制度もございます。そこに登録するという方法も市としては助言をしております。

市長：まず具体的に今住まわれていなくて、こんな状況だということは相談をしてください。持ち主に対して、個人情報の問題があつて区の方に教えますと叱られてしまいますので、そこは丁寧に対応しなくてはなりませんので、市の方からお願いをしてそこからキャッチボールをしていきたいと思っておりますので、具体的な案件でご相談いただければと思います。

市民：今年取組として、今年中大塩では初めてだったんですけど、ある区で内政区長さんが地主さんやそこに住まわれている高齢独居の方と、業者さんや隣組、区役員の間に入っていただいて調整をして、最終的には業者さんに入っていただいて見積もりのチェックもして、隣組の人達も手伝って対処したという事例があります。ですからそういったお宅があれば連絡をとってそういった動きをしますよと、事例もあるわけです。私がお願いしたいのは、ここには「指導、勧告、命令が可能」とある訳です。「行政代執行の方法により強制執行が可能」な場合がある訳ですよ。こういった場合の線引き、「こういったときには強制執行だとか、勧告、命令しますよ」といった線引きの条例化とかそういったことをしていただけないかというお願いです。

市長：それを今取り組んでいます。命令、勧告するのも簡単ではなくて、対策協議会にはかつて、どうみても駄目だとお墨付きといいますか、それをもらった上で勧告という段取りになりますので、それに向けて取り組んでおりますので、よろしく申し上げます。

他にございますか。

市民：2点ありますが、一つはビーナちゃんバスの代替えについて、もう一つは特に中学になります地区生徒会はどういうことをやっているのかについて。1点目のビーナちゃんバスの件ですが、私は社協の関係で雪かきを担当してしまっていて、高齢者世帯を回って今シーズン雪かきをどう支援していくか話し合いをしています。来年から外出支援もやろうということで、例えば92、93才の方が免許を去年返納して、「外出とか病院とかどうしてますか」と話をしたところ、「電動自転車を買って買物はJAまで自転車で行ってます。時々ビックまで自転車でいって、帰りはきつい。来年はどうかな」と言う人がいたり、「行きはビーナちゃんバスで行って、帰りは荷物が多くなってしまおうのでタクシーになってしまう」ということで、買物あるいは病院に行くのに、中大塩は高齢になると不便と感じる人は増えていくだろう。茅野駅に行くにもタクシーが片道2200円。市の社協でいろいろやっているとは思いますが時間が合わなくて、タクシーを使うのは彼らの年金生活にはきついと言っています。ビーナちゃんバスも走っていますし、タイヤも見直されたと思いますけど、もっと目的地に向かって「中大塩から病院行き」「中大塩からビッグ、オギノ、D2行き」とか目的地別のバスを走らせるということを検討してもらいたいです。例えば月曜は中央病院行き、火曜・木曜は買物バス、月・水・金は縄文の湯行き、ということができないかどうか。今走っているビーナちゃんバスは空席が目立つので、コスト的には同じぐらいになるのではないかと。地区毎に目的別のバスを走らせることは可能ではないかと思うので、検討していただきたいです。2点目の中学の地区生徒会の活動についてですが、先程の一角支援と言いますと昨年よりも4名ほど支援をしてくれている方が増えていて、それに対してボランティアで支援をする方の数が少ないという状況に陥っています。その中で例えば中学生が手伝ってくれればと思います。秋のお祭りでも中学生のブースを作って出店してもらっていますが、毎年人材を確保するのに精いっぱいな状況になっています。中学生の地域への活動はかなり難しく、そういったことを乗り越えるには中学校として地域への貢献活動を積極的にやっていただいた方が良くと思います。そういった関連から地域と中学生との繋がりができて子供の見守りにも繋がると思いますので、そういったことももう少し検討していただきたいと思います。中大塩は先程の地域資源のところで、本当の意味であらゆる世代で支え合う地域になれば良いかと思っています。

教育長：貴重なご意見ありがとうございました。休みの日の地区生徒会は実際に難しいところがあります。例えばこのところの土曜・日曜は部活の新人戦が入っています。今度の土曜は南信大会があってバスケットの大会があります。ただそういう中で北中の校長先生が一番大切にしているのは中学生が地域づくり・まちづくりに参加していこうと。生徒会活動ができないなら授業でやろうということで、この間はそれぞれ3年生が健康福祉や安全、まちづくり、商業、縄文等10個ぐらいテーマによってグループを作って、1年間調べてそれに対して市の職員がグループに入って一緒に話を2月にまとめようということで、自分達のまちづくり・地域づくりをかなり頑張っています。地区の生徒会活動はいろいろな事情があって弱いんだけど、学校としては校長先生はそういう方向をとっています。また地区の生徒会活動について工夫す

ることがないか伝えておきます。

市長：バスの方ですけど、先程からお話しておりますように今の形態がベストだとは思っていませんので、より良い形に運行している状況を見ながら変えていかなくてはいけないと思います。いずれにしても100%満足することは不可能だと思います。おっしゃったように「目的地なら目的地行きにはやるけど、今までの形態はなくなるよ」という中で、どちらの方がより地域の皆さんに使いやすくなるかは検討していかなくてはいけないので、担当課の方で日々取組はしていますので、具体的に「中大塩ならこんな運行が住民の満足度が高い」をご提案いただければそれも参考にしながら取り組んでいくことになると思います。コミュニティバスという制度がありまして、「中大塩に1台預けるので、中大塩の皆さんで良い形で運行してください」ということで総経費がどれぐらいかかるか、でもその方がお金をかけた分満足度が高ければそれもありがたなと思っています。結構茅野市はバスを運行するには不便な場所です。それも考慮しながら、だけど少しでも市民の皆さんにとって良い形にしていきたいと思っています。是非、それが実現するかは別として具体的な提案をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

まだご発言もあろうかと思いますが時間も過ぎました。今年度のまち懇は以上とさせていただきます。お忙しいなか遅くまでお付き合いいただき、良いご意見をたくさんいただきました。それぞれの第5次総合計画、またそれに限らず反映できるものはすぐにしていきたいので、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。